

平成 29 年度全国学力・学習状況調査 結果分析・活用について

学校名

大磯町立大磯中学校

1 調査結果の分析で明らかになったこと

	習得の状況が良好であると判断できるもの	指導の改善・充実が求められるもの
国 語	A問題、B問題ともに国・県の正答率と同程度の結果である。基本的な学力は一定程度身につけていると考えられる。複数の意見を把握する力と、構成を意識して発表者の意図を考える力はともにこれまでより向上している。事象や行為などを表す多様な語句について理解している。	A問題においては、「古典作品の種類」や「行書の特徴」に関しての知識が不足している。「文章表現の仕方について自分の考えをもつ」に対する正答率が低い。B問題では「比喻を用いた表現に着目し、感じたことや考えたことを書く」力が不足している。
数 学	A、Bともに多くが国・県の平均を大きく上回った結果から見て、技能など、基礎・基本的な問題の解法についてはよく理解していると考えられる。また、数学的な見方や考え方、数学的な事象を言葉でまとめて説明するという力についてもこれまでより向上が見受けられる。	A問題の「相対度数」など、割合の概念が入るものは今年度も、正答率が低い。B問題の「回転」に関する問題では実体験が少ないようで、想像する力が定着していない。しかし、生徒個々にみると学力差があるので数学が苦手な生徒へのサポートが今後必要である。

質問紙	「学校の授業以外（塾等も含む）の勉強時間」について3時間以上と回答した生徒が全国を大きく上回っている。また、「家で計画を立てて勉強している」と回答した生徒も多い反面、「家で学校の宿題をしていない」という回答も多い。生活的な面では、「携帯電話やスマートフォンの使い方について、家の人と約束したことを守っている」が全国を下回っている。また、「地域や社会をよくするために考えている」という回答も多い反面、「地域の行事にはあまり参加していない」という回答が多く、矛盾した点も見受けられる。「将来、外国留学など国際的な仕事についてみたいと思っている」生徒も全国を上回っている。
-----	---

2 学校運営及び授業の充実に向けた取り組み

学習においては、全体的に全国を上回る結果ではあり、教職員で取り組んでいる授業研究の成果が出ていると考える。しかし、「知識を活用する思考力・判断力・表現力」に関してはさらに伸ばすことができるように指導方法の工夫・改善を図っていく。また、「話し合い活動にあまり取り組めていない」と回答する生徒も多いので全ての教科等で人の話を聞き、話し合っ、自分の考えを深めるような活動を意識して多く取り入れていく。

3 家庭（地域）へのお知らせ ※取り組んでいただきたい内容や知っておいてほしい内容等

「毎日、同じくらいの時刻に寝ている。」「携帯電話やスマートフォンの使い方について家の人と約束したことを守っている。」については全国より低い結果でした。家庭教育の重要性を再確認していただき、学校と連携して取り組んでいきましょう。学校の授業以外の勉強時間が全国に比べて多いという結果でしたが、学習方法や内容は適切かということもお子様と一緒に検討していただければ幸いです。

